THE VALUE OF VACCINES

ワクチンの価値

PhRMA

目次

「ワクチンの価値」巻頭挨拶 04

The Value of Vaccines 06

はじめに 08

1. ワクチンの公衆衛生全般の便益と費用面での便益 08
2. ワクチン接種はその他の予防医療へのアクセスを提供する 11
3. ワクチン接種の安全性とリスク 12

日本のワクチン政策の変遷 14

1. 感染症による社会的損失を防ぐ 14
2. 義務規定から努力義務規定へ 14
3. 「個別」接種の功罪 15
4. 高齢化社会を迎えて 17
5. 新興・再興感染症とワクチン・ギャップ 17
6. 改正予防接種法と予防接種基本計画の策定 18
7. 今後の日本におけるワクチンの価値とは 19

ワクチンを中心に、予防医学の進展が大いに期待できる 20

川崎市安全研究所所長・厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会会長
岡部　信彦

個別のワクチン接種の現状 22

Hib ワクチン 22
小児肺炎球菌ワクチン（7 価 /13 価） 23
成人肺炎球菌ワクチン 25
水痘（水ぼうそう）ワクチン 26
ムンプス（流行性耳下腺炎 / おたふく風邪）ワクチン 27
HPV ワクチン（子宮頸がん予防ワクチン） 28
B 型肝炎ワクチン（HBV ワクチン） 29
ロタウイルスワクチン 30

「ワクチンの価値」巻頭挨拶

わが国では、定期接種ワクチンの種類が欧米諸国に比べ少ないこと、あるいは諸外国で使用されている新しいワクチンの導入に時間がかかることなど、予防接種施策の遅れが「ワクチン・ギャップ」と呼ばれ、かねてその解消が求められてきました。

ワクチンで防ぐことができる病気（VPD：Vaccine Preventable Diseases）からひとりでも多くのひとを救うために、地域間や経済的格差なく、希望するすべてのひとが公費（定期接種）で予防接種を受けられる制度の実現が必要であることから、これまでも日本医師会はさまざまな取り組みを行い、その成果として、平成２５年４月より予防接種法の一部が改正され、Ｈｉｂ感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症が定期接種へ追加されました。さらに本年１０月からは水痘、成人用肺炎球菌も定期接種となることが予定されています。

現在、予防接種法に基づきＡ類疾病としてジフテリア、百日せき、急性灰白髄炎（ポリオ）、麻しん・風しん、日本脳炎、破傷風、結核、Ｈｉｂ感染症、小児の肺炎球菌感染症、ヒトパピローマウイルス感染症が、またＢ類疾病としてインフルエンザが定期接種として行われています。

このように近年、定期接種として接種できるワクチンが増加しているものの、未だ流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、Ｂ型肝炎、ロタなどのワクチンは任意接種のままの状態にあります。また、定期接種のワクチン増加による予防接種スケジュールの過密も課題となっており、被接種者の負担を軽減するためにも混合ワクチンの導入が望まれます。

さらに、ワクチンを含む医薬品の投与には、稀であるとは言え、副反応（副作用）の発生が不可避であることに対する国民の理解が、必ずしも十分に浸透していない現状があります。

これらのことを含め、真にワクチン・ギャップを解消し、予防接種を推進していくには様々な立場の者が、それぞれの分野で着実な取り組みをしていく必要がありますが、何より多くの国民が予防接種の重要性を認識することが大切であると考えています。

予防接種を巡る状況が変化してきているなかで、本冊子が刊行されますことは誠に時宜を得たものと考えます。

本冊子が多くの方々に活用され、真のワクチン・ギャップ解消の一助となることを切に願うものです。

日本医師会　会長　横倉　義武

“

真にワクチン・ギャップを解消し、
予防接種を推進していくには
様々な立場の者が、それぞれの分野で
着実な取り組みをしていく必要がありますが、
何より多くの国民が
予防接種の重要性を認識することが
大切であると考えています。

”

THE VALUE OF VACCINES

日本はワクチン後進国――こう耳にすると誰もが驚かれるのではないでしょうか。しかし、残念ながら先進各国で公費負担により定期接種化されている水ぼうそうやムンプス（おたふく風邪）といったベーシック・ワクチンが日本では個人負担による任意接種にとどまっているほか、被接種者の負担を軽減し、安全性を高めた最新のワクチンの開発・導入の遅れなど、様々な面で日本と世界との「ワクチン・ギャップ」が認識されています。なぜ、ギャップが生じたのでしょうか。ひとつには、世界に誇る公衆衛生と長寿社会を築き上げてきた過程で、ワクチンの効用や社会的な価値に対する認識が薄れてきたことがあげられます。

本冊子ではまずグローバルな視点で公衆衛生上のワクチンの価値と存在意義をあらためて見直し、ワクチンによる社会防疫と予防医療がもたらす医療経済的、社会的な便益について解説しています。続く国内の実情では、日本のワクチン政策の変遷と 2013 年 4 月の予防接種法の改正に関して概説し、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会会長の岡部信彦先生に総括していただきました。また、一部ですが個々のワクチン接種の実情を巻末に記載しています。

少子・高齢化社会につき進む日本は今、一次予防を推進することで国民総医療費を適正化し、国民ひとり一人が健康で自立した日常生活を送り健康寿命を全うするための医療政策を模索しています。ワクチン政策もその一環であり、今後ますますその重要性は増して行くものと思われます。ワクチンの価値と日本のワクチン政策の現状をご理解いただき、そして次世代の安心を守るために、本冊子をお役立ていただければ幸いです。